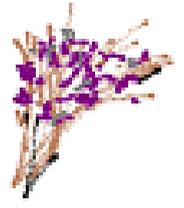


市民の学びを大事にしていこう！！

図書館本館の
設計は、これで
大丈夫なの？



地域図書館は、
ちゃんとした「図書館」
として位置づけられて
いくの？



芸術・文化・スポーツ団体やさまざまな社会問題に取り組んでいる市民運動団体の活動や催し・学習会は、市民の貴重な学びの場です。一人ひとりの市民や市民団体の「学び」を継続して支える地域の社会教育施設・職員・事業は、このような自由で生き生きとした市民活動の発展にとって不可欠です。また私たちが時代・社会を深く理解し、他人まかせにせず**自分で考え、だまされず、流されず、お互いに学び合いながら生きていくためには、質の高い、幅広い学びが必要です。**

そのような質の高い、幅広い学びの機会を市民に保障する自治体をつくっていきましょう。

今年が多摩市の社会教育施設、特に図書館について、**本館基本設計、地域図書館「存続」のための修繕の議論等、その内容、市民の意見を集約するプロセスにさまざまな疑問が出されています。**

そこで改めてこの問題について、**自由に意見交換し、問題の所在を考え合うミニ学習会**も行います。この学習会の成果は、今後当会として行う予定の諸活動に生かしていきたいと考えています。ぜひ、覗きにきてください。どなたでも歓迎です！！

11/8 14時～16時 企画1 **多摩市の社会教育施策－といわけ図書館体制について 1**

11/9 14時～16時 企画2 **多摩市の社会教育施策－といわけ図書館体制について 2**

11/10 13時～15時 **ギャラリートーク**(展示の解説を聞き、みんなで意見交換します。)

日時 **2019年11月7日(木)～10日(日)** 10:00～18:00

(11/7は15:00から、11/10は15:00まで)

場所 多摩市**関戸公民館** ギャラリー (ヴィータ内) 京王線 聖蹟桜ヶ丘駅 駅前

主催 **多摩市の社会教育を考える会**

(展示協力・展示内容等 豊ヶ丘複合館存続の会、東寺方複合館の存続を考える会

聖ヶ丘図書館の存続を考える会、唐木田図書館の存続を考える会

多摩市に中央図書館をつくる会、多摩市文庫連絡協議会、

マイナンバー制度と水道民営化・広域化問題を考える会、

戦争いらない多摩市民連合、

愛知県豊川市海浜平和公園(戦前の海軍工廠跡地)の写真(増田康雄)展示 ほか)

主管 多摩市民文化祭実行委員会

問い合わせ先 多摩市の社会教育を考える会

荒井容子 (yarai@hosei.ac.jp) , 安室君子 (tel/fax 042-373-8258)

ホームページ <http://www.t.hosei.ac.jp/~yarai/tamashakou/tamashakou.html>



多摩市の社会教育を考える会



私たちのあゆみ

多摩市の社会教育を考える会は、多摩市の社会教育各分野で活動している市民が、多摩市のよりよい社会教育をめざして学び合い、市政、世論に積極的働きかけていく会です。「多摩市の社会教育について考える相談会」(2014年12月23日豊ヶ丘集会所にて開催)で発足しました。

問い合わせ先 荒井容子(yarai@hosei.ac.jp) 安室君子(tel/fax 042-373-8258)

次回会合の日程など、ご案内いたします。



私たちの思い



現在の多摩市の社会教育施策の問題－社会教育施設の不合理な大幅削減

2013(平成25)年11月、多摩市では「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を掲げ、地域図書館、公民館、児童館等の削減を打ち出しました。廃止(不合理な移転)を提案された施設がある地域では、廃止(移転)に反対する運動へと展開しました。こうしたそれぞれの地域での思いがつながり、2014(平成26)年12月に、私たち「多摩市の社会教育を考える会」が生まれました。

多摩市の歴史の中で育まれてきた社会教育施設－専門性、地域配置の重視

会合を重ねるなかで、地域図書館、児童館等が、それぞれの地域でいかに大事に、日々の生活に活かされてきたかを、互いに知ることになりました。また、公民館は単なる貸し部屋ではなく、図書館は単なる本の受け渡し場でも単なる読書ロビーでもないこと、それらの社会教育施設には、市民の学びを支えるために必要な専門的な機能があり、これを担う職員がいることも確認してきました。この確認をもとに「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」(2013(平成25)年)をみると、単なる床面積等の数合わせで削減するという安易さがありました。さいわい2016(平成28)年11月の「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の更新では、地域図書館の削減廃止見直しを求める多くの市民の声もあり、「図書館本館の整備に合わせて地域館は廃止する」としていた案は変更となりました。「本館の再構築とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、施設の大規模改修の時期までに市民と対話を行いながら、地域のニーズの把握と対応策の検討を続けます」とされました。

地域図書館を、今まで通りきちんとした図書館として位置づけて発展させていく、その自覚と実践、施策が求められています。

市民みんなの知恵を集めて、社会教育施設のあり方を考えていくべきです。

市財政の厳しさが強調されていますが、その中でどのようなやりくりをして公共施設の体系をつくるかは、それぞれの施設が設置されてきた意味を踏まえて、市民とともに検討していくべきです。図書館・公民館をはじめとした社会教育施設についても、社会教育施設の価値を深くとらえている市民、日常的にその価値を感じとっている市民の知恵を集めて、施設配置計画を考えていくべきです。また、蓄積されてきた社会教育の思想と方法を専門的に身につけ、市民とともに学びあっていく姿勢をもった職員を配置した、質の高い社会教育施設が、地域に丁寧に配置される必要があります。これは、市民が深く考え、学びあい、表現し、いきいきと生きていける地域社会をつくる合理的な施策です。また他の社会教育施設も同様ですが、特に図書館の新本館が生まれるにあたり、地域館から市の職員を引き上げ、運営を民間に委託する等のことはあってはなりません。

新本館の設計や運営のあり方も、これまでの市民の経験を活かし、市民の知恵を寄せ合い、きちんとした意見交換を経てつくっていくべきです。市民みんなが、このような本館ができて本当によかったと心から喜べるように、市民に疎外感を感じさせるような拙速な施策の遂行はせず、基本構想、基本計画のときのように、もっと丁寧に、本当の意味での市民の合意をつくって、施策を進めてください。

大事な社会教育等の施設の大規模改修は遅らせないでください。

図書館、地区市民ホール、児童館、学童クラブ、老人福祉館を擁する(施設によって異なるが)四つの複合館(連光寺、豊ヶ丘、諏訪、東寺方)は、今まで一度も大規模改修を行っていません。とりわけ、上述の五つの施設すべてを擁する豊ヶ丘複合館、東寺方複合館は、それぞれ建築から40年、38年以上経過しています。

両複合館では、周辺地域住民と今後のあり方が話し合われていますが、地域図書館の本来のあり方をないがしろにせず、また施設保全のための大規模改修を、遅らせることなく進めてください。